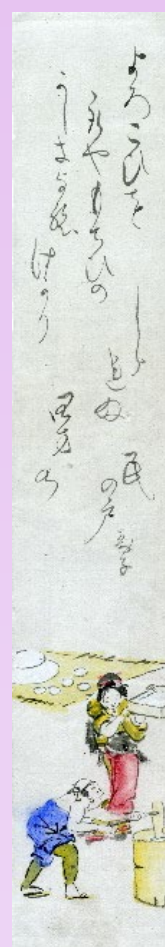


第20回 学祖・下田歌子展

生誕から宮中奉仕、 結婚、女子教育の道へ

2021年4月5日（月）－ 5月28日（金）

【事前予約制】・詳細は当館ホームページをご覧ください。
・学内の方は予約不要ですが、受付にてご記名いただきます。



開館時間 10：30～16：00

休館日 土・日曜日、
5/4（火・祝）

観覧料 無料

会場 実践女子大学香雪記念資料館
企画展示室 1・2

主催 実践女子大学香雪記念資料館
後援 渋谷区教育委員会

実践女子大学香雪記念資料館

東京都渋谷区東1-1-49 実践女子大学キャンパス内

電話：03-6450-6805

HP：<http://jissen.ac.jp/kosetsu/>

実践女子大学香雪記念資料館 第20回 学祖・下田歌子展

生誕から宮中奉仕、結婚、女子教育の道へ

学園創立者である下田歌子は、安政元年（1854）8月8日、美濃国岩村（現在の岐阜県恵那市岩村）に、岩村藩士・平尾録蔵と妻・房の長女として生まれ、幼名を鉾（せき）といいました。

平尾録蔵（他山）は、歌子の曾祖父にあたります。家族は、両親および、録蔵の三女・貞と後に生まれた弟・錦蔵の5人家族でした。父・録蔵は尊皇家であり、また謹厳実直で一途な性格のため、藩内の内紛に巻き込まれ、安政5年（1858）遠慮謹慎を命じられました。それは、歌子5歳の時でした。幽閉の父と乏しい収入をやりくりする母、そして不遇の平尾家にあって毅然と生きた祖母・貞の厳しい薫陶を受けて、歌子は成長しました。歌子は、幼い頃より神童のほまれが高く、和歌、漢詩の才能にも恵まれていました。

元治元年（1864）に謹慎が解かれた録蔵は、幕末維新の動乱期にあって、藩のため、朝廷帰順に奔走します。しかし慶応4年（1868）5月、理由不明のまま、再び隠居謹慎を命じられます。その時、歌子は多感な15歳の少女になっていました。その平尾家に大きな転機が訪れます。父・録蔵が、明治3年（1870）に明治政府より神祇官の宣教使史生として召し出され、東京に出府したのです。

翌年、歌子は父を追って単身上京し、故あって離別した祖父・東條琴台にも教えを受けることとなります。また、和歌を、加藤千浪、八田知紀に学び、後には八田の高弟・高崎正風の教えを受けます。これらのことが、やがて歌子の宮中への道を開かせることとなります。

今回は、下田歌子の生誕から宮中奉仕、下田猛雄との結婚、桃夭学校設立までを、歌子の人格形成に欠くことのできない家族、特に幕末維新という時代に翻弄される父・録蔵、祖父・東條琴台、夫・下田猛雄と、女子教育の道を歩むきっかけとなった桃夭学校関係の資料を展示します。

【アクセス】

JR／東京メトロ／東急／京王「渋谷駅」東口から徒歩約10分
東京メトロ「表参道駅」B1出口から徒歩約12分

※当館は、実践女子大学渋谷キャンパスの創立120周年記念館1階にあります。ご来館の際には、駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください。また、六本木通り沿いにある正面入口右手の警備室に、入館の旨をお伝えください。

実践女子大学香雪記念資料館

〒150-8538
東京都渋谷区東1-1-49 実践女子大学渋谷キャンパス内
TEL 03-6450-6805
HP <http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>

